



大庭小学校だより

文責:佐藤

3月18日に卒業式を行いました。95人が次の一步を歩み出します。卒業生に向けて話しました。

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

みなさんは、この1年間、学校のリーダーとしてご活躍くださいました。全校を代表してお礼を申し上げます。ありがとうございました。

さて、校庭のフェンスには、皆さんの夢や目標を書いたしゃぼん玉が飛んでいます。皆さんは、どんな夢や目標を書いたのでしょうか。今日がその第一歩ですね。

また、6年教室には、友達へのメッセージや人生を元気づける名言が書かれた日めくりカレンダーが貼られています。それは、言葉の贈り物を交換しているようで、とてもすてきだなと思いながら、毎日眺めていました。ついに最後の一枚です。

私からも、みなさんへ門出を祝う言葉を贈ります。

この話には、この鳥が登場します。

南アメリカなどにいるハチドリという鳥です。全長が大きくとも10センチの鳥類の中で一番小さな鳥です。蜂のように羽ばたき空中に止まって、花の蜜を吸うのだそうです。このハチドリが登場する短いお話が南アメリカに伝わっています。



森が燃えていました。森の生き物たちは 我先にと逃げて行きました。

でも クリキンディという名のハチドリだけは行ったり来たり、くちばしで水のしずくを1滴ずつ運んでは火の上に落としていきます。

動物たちがそれを見てそんなことをして一体何になるんだと言って笑います。クリキンディは こう答えました。

(何と答えたと思いますか?)

「私は、私にできることをしているだけ。」

火事を放っておけない、見過ごせないハチドリは水を一滴(ひとしずく)ずつ運んだわけですね。これが私から皆さんに贈る言葉です。

「私は、私にできることをしているだけ。」

私自身、自分の生き方の目標としている言葉です。

人ひとりができることは、しょせん限られています。

それでも、一人一人が自分にできることをしていけば、きっと世の中は、社会は少しずつ良くなっていくはずですよ。

一人の一步は小さくても、100人の一步は遠くまで行けます。

6年生は95人、小学校でそのことを学んだはずですよ。みなさんの「私にできること」で大庭小学校は、一步一步素敵な学校になっていきました。

この後は、5年生が引き継いでくれますよね。安心です。

あなたにとっての「ハチドリのひとしずく=放っておけなくて、見過ごせなくて、私にできること」は、あなた自身が選び、決めて、行動することではなくてはなりません。

あなたには、もう「ハチドリの一としずく」が見つっていますか？

まだという人がほとんどだと思いますが、中学校やその後の人生の中で、きっとあなたが「放つてはおけない」「何とかしなくては」「やらなくては」と思うことに会うはずです。

それを見つけに、中学校へと進んでください。想いや願いが人生を動かしてくれます。

保護者のみなさま、お子さまのご卒業おめでとうございます。立派に成長された姿をご覧になり感慨もひとしおかと存じます。ご来賓のみなさま、ご多用の中ありがとうございます。今後とも、地域の未来となる若者を見守ってやってください。ご家庭や地域の支えで大きく成長した卒業生ですが、これからも一步一步 自分の人生を歩んでいきます。引き続き、子どもたちの一番の応援団でいらしてください。

あらためて卒業生のみなさん、保護者や地域の方、私たち教職員もみなさんの応援団です。自分にとっての「ハチドリの一としずく」を見つけ、中学校やその後の社会をよりよくしていきましょう。

1年生と6年生とを比べれば、12年のうちの半分6年間の間にも、大きな成長がわかります。0歳からの成長を見守ってこられた保護者の方から見れば、なおさらでしょう。

これから、わずか3年後には義務教育は終わります。保護者が、子どもに教育を受けさせる義務を負うのは、中学校までの9年間です。さらにその3年後の18歳には成人となります。経済的、生活的、精神的に他者（主に親）から離れ、自分で責任とることができる人とみなされるわけです。「未成年の子どもを守り教育し、元気に育てる」という保護者の義務は18歳までと言えます。

時にあるのですが、「勉強いやだ」という子には、自立を促すべく、こんな話をしていました。「義務教育はあと〇年。生きていくための最小限の力はそこまでで身につくよ。そのあとは高校には行かなくても働いて暮らしていてもいいんだよ。」「18歳になると大人だから、自分でかせがなるといけないんだよ。今の君の部屋を借りたら、光熱費や食費とかいろいろでいくらかかるかな？」「君は将来どうするのか？君の夢や目標を教えて。そのためにどうするか一緒に考えよう」学校の学びは、きっと夢や目標につながります。

当然18歳でいきなり自立とはならないので、少しずつ少しずつ自立に向けて働きかけていくこととなります。自分でできることを増やして、保護者が見守る立場にかわっていく。やってあげるからやってみさせるに、さらに自分の考えをもって生きていけるようアドバイスをするというように関わりが変っていくのでしょうか。成長を見続ける素敵な役割です。

人生100年時代と言われる卒業生にとっては、12歳の小学校卒業は、野球でいえば1回が終わったところくらいでしょうか。1年生は1回の表終了くらい。まだまだ、様々なドラマが待っていることでしょう。自分の長い人生を生きていく人を育てるために、未来の社会を築いていくためにこれからも保護者・地域・学校が力を出し合って、子どもたちの自立を促していきたいと思います。



今年度も大変お世話になりました。保護者・地域のご協力あつての学校です。来年度も、どうぞよろしく願いいたします。ご関係のみなさま全員にお礼申しあげます。ありがとうございました。追伸 本日、人事異動のお知らせを子どもたちに渡しています。勤務の長短はありますが、みな大変お世話になりました。重ねて、お礼申しあげます。卒業生に負けずそれぞれ新天地でがんばります。